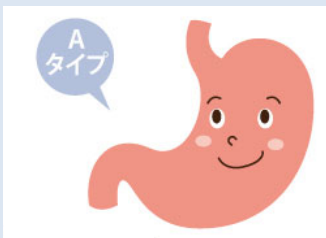
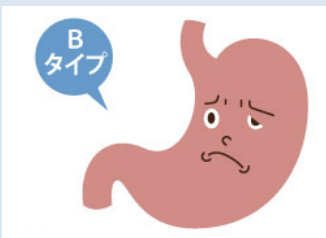
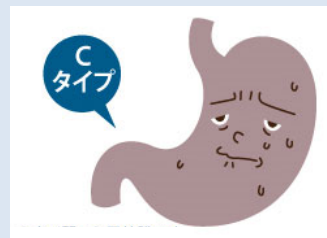



# ピロリ菌と胃がん発生リスク

	正常	異常		
ABC分類	A	B	C	D
胃粘膜の状態	正常	軽度萎縮	中等度萎縮	高度萎縮
<b>ピロリ菌</b>	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)	陰性 (-)
ペプシノゲン	陰性 (-)	陰性 (-)	陽性 (+)	陽性 (+)
胃の健康度				
	健康な状態です	ピロリ菌感染あり 胃粘膜の萎縮進行あり	ピロリ菌感染あり 胃粘膜の萎縮進行なし	胃粘膜の萎縮が進み、 ピロリ菌が住めなくなった状態
<b>胃がん発生リスク</b>	1としたとき	7倍	14倍	61倍

## ヘリコバクターピロリ菌検査（胃カメラ時）

胃内視鏡検査時に胃の組織を一部採取し、ピロリ菌の有無を調べます

## ヘリコバクターピロリ菌検査（採血）

血液中の抗体によりピロリ菌の有無を調べます

一度ピロリ菌に感染すると抗体ができるため、ピロリ菌除菌後の方には適しません

## バリウム検査

画像診断により胃粘膜の状態を観察し、萎縮性胃炎の有無（ピロリ菌の有無）やポリープや癌などの病変がわかります

## 萎縮性胃炎

ピロリ菌に感染すると萎縮性胃炎になる可能性は高く、また、萎縮性胃炎になると胃がんの発生リスクも高くなります

**E  
タイプ**

ヘリコバクター・ピロリ菌除菌後の方は、Eタイプ（除菌群）として定期的に内視鏡検査を受診しましょう